

小学生から大人まで、名古屋港の魅力を探る ～夏休み企画「港から考える日本のエネルギー」を開催しました～

平成27年8月21日(金)、名古屋港でエネルギーと港について学ぶイベント、「港から考える日本のエネルギー」を開催した。

このイベントは、「中部エナジー探検隊(代表:大竹由紀子氏)」が、エネルギー資源や食料など、私たちの暮らしに欠かせないものの多くが港から入ってくることを学習することを目的に開催したもので、名古屋港湾事務所が共催したものだ。

「中部エナジー探検隊」は平成19年7月に女性14名で組織された団体で、資源・環境・エネルギー等に関する学習を続け、様々なテーマで講演を行っており、今回のイベントでは名古屋港をエネルギーという切り口で考えるというテーマで講演を行った。

当日は、小学生をはじめ、計67名が参加した。港の先生、エネルギーの先生の2名が講演を行い、ナビゲーターの水尾衣里氏(名城大学人間学部教授)との漫才のような掛け合いで進められた。なお、名古屋港の発展の歴史と深い関わりのある清龍丸の船内見学もあわせて行った。

■本イベントの概要

I エネルギーと港をテーマにした講演

13時30分～15時30分 (名古屋港ポートビル2階)

港の先生

板生考司氏(名古屋港湾事務所企画調整課長)
名古屋港の歴史から現状のすみずみまで知っているベテラン港案内人。



エネルギーの先生

金田武司氏(ユニバーサルエネルギー研究所所長)
(株)三菱総合研究所先進エネルギー研究。チームリーダーを経て平成16年11月より現職。コメンテーター・解説等、ニュース番組などに出演。



ナビゲーター

水尾衣里氏(名城大学人間学部教授)
専門は建築学、都市計画。現在名城大学にて環境人間学、都市文明史担当。国土交通省をはじめ愛知県など数多くの行政機関や各種団体の委員などを歴任。



II 浚渫兼油回収船「清龍丸」の船内見学

15時45分～17時00分 (港区空見町)



■当日の様子（写真は別紙）

エネルギーと港をテーマにした講演は、「名古屋港が取扱貨物量日本一の港であること」、「港が機能するためにはエネルギーが必要であり、港が機能しなくなった場合には人々の生活や企業の活動に影響が出ること」、「災害時にも港が機能するために名古屋港では様々な取組がなされていること」、「エネルギー資源の乏しい日本ではエネルギーの輸入が必須で、エネルギーを運び込む港の役割が重要であること」、などについて講師とナビゲーターの3名で進められた。

清龍丸船内見学では乗組員が「港の安全を守るための浚渫作業や油回収作業の概要」と、「災害時に備えた機能」について説明を行った。

<参加者の感想>

①講演に関する感想

- ・名古屋港の日本における役割の大きさ、関わっている人、モノ、全て誇れるものだと思った。
- ・名古屋港の貨物取扱量が日本一とは驚いた。港の大切さが良く理解できた。
- ・資源の乏しい日本について学べた。
- ・エネルギーについて違う面から考えさせられた。名古屋港についても関心が深くなった。
- ・3人の講師がそれぞれ専門の立場から話されたので3倍ためになる情報が聞けた。

②「清龍丸」船内見学に関する感想

- ・このような機会がなければ入ることのできない貴重な経験ができた。
- ・環境を守るために清龍丸があることを見て聞いて知ることが出来た楽しい見学会だった。
- ・仕事に対する熱意が感じられた。
- ・見学したことを周りの人々にできるだけ話したい。

■配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス

■問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所

企画調整課 板生(いたお)

TEL 052-651-6763 FAX 052-652-0303

■ 当日の様子(写真)



中部エネルギー探検隊代表 大竹由紀子氏の挨拶



エネルギーと港をテーマにした講演の様子①



エネルギーと港をテーマにした講演の様子②



「清龍丸」船内見学の様子①



「清龍丸」船内見学の様子②



「清龍丸」船内見学の様子③



「清龍丸」船内見学の様子④



「清龍丸」船内見学の様子⑤